

令和7年度 第1回 桜が丘学園 ケアセンター
地域連携推進会議 会議録（要点版）

【1. 開催概要】

日時：令和8年3月4日（水） 15時00分～16時00分

場所：桜が丘学園 食堂

出席者：委員6名：利用者 様、保護者代表 様

地域代表者 様（元公民館長）

福祉関係者 様（長崎国際大学講師2名）

佐世保市障がい福祉課 様

施設4名：理事長、管理者、サービス管理責任者、総務主任

欠席者：0名

記録者：管理者

【2. 議題・要点】

（1）施設の現況報告

- ・利用者数：10名（定員10名）
- ・職員体制：常勤 4名、非常勤 2名
- ・事故・感染症：重大事故なし

（2）利用者支援の取組

- ・家庭（家族）との情報共有
- ・日中サービス事業所との連絡調整
- ・個別支援計画の進捗：生活スキル向上、健康管理の強化

（3）地域連携の状況

- ・市町村・相談支援との情報共有を継続
- ・医療機関との連携（定期受診・緊急時対応）

（4）虐待防止・権利擁護

- ・虐待防止委員会を年4回開催
- ・行動制限の最小化に向けた検証を実施
- ・職員研修（虐待防止・感染症対策他）を実施

(5) 医療・緊急時対応

- ・ 嘱託医との連携強化
- ・ 夜間・休日の緊急対応体制を確認
- ・ 災害時マニュアルの見直し

(6) その他

いただいたご意見

■ 利用者・家族・地域の方から

- ・ 「楽しく生活できていて安心している」（家族代表）
- ・ 施設を訪問するたび利用者の明るい雰囲気から、職員の丁寧な支援が伝わる（地域の代表）
- ・ 「他の利用者からお皿の使い方で注意されることがある」（利用者代表）といった声もあり、生活場面でのコミュニケーションについて課題が共有されました。

■ 職員から

- ・ 利用者との距離が近くなり、声かけに丁寧さに欠けることがある
- ・ 親しみやすさと支援者としての距離感のバランスが難しい
- ・ 敬語の使い分けや場面ごとの切り替えが必要

■ 大学教員からのアドバイス

- ・ 丁寧すぎても、家族的すぎても極端になりすぎるとよくない
- ・ 「よその子に優しく注意するような距離感」が理想
- ・ 敬語は職員自身の言動を整える“ブレーキ”として役立つ
- ・ 今後は認知症の方への支援も必要になる可能性

【3. 総括】

- ・ 地域との連携強化が継続的課題
- ・ 医療・緊急時対応の情報共有体制をさらに整備

【4. 会議議事録公開先】

令和7年度 地域連携推進会議議事録は、桜が丘学園事務所受付にて公開しております